私たちは経営学部に所属する学部 3,4 年生で、KIBER プログラムに所属しています。2021 年 4 月 15 日～4 月 26 日までの間、University of Washington Foster School of Business が主催して行われたビジネスケース・コンペティションに参加しました。

今回、ビジネスケース・コンペティションへの参加を決意した理由は、世界の学生から刺激を受けたいと考えたからです。今回の大会には、世界 19 か国から計 24 大学のチームが参加しました。National University of Singapore や Chulalongkorn University など、世界大学ランキング上位の大学も参加しており、世界レベルの学生と交流をもつ、打ってつけの機会だと考えました。

- 体験したこと

今回の大会は Short case と Long case の二部で構成されていました。Short case では、他大学との混合チームに分かれ、24 時間で Bitmovin 社に関する課題に取り組みました。Long case は神戸大学チームのみで、3 日間かけて、テスラ社の経営戦略をテーマとした課題を取り扱いました。Long case では 24 全チームのうち 3 チームが決勝ラウンドに進出し、3 チームの発表・質疑応答後に優勝チームが決まるというものでした。

これらの課題に加えて、各課題の間に Social Activity が企画されており、ゲーム等を通じて他大学の学生と交流する場がありました。

- 参加を通じて

振り返ってみて、今回の参加には 3 つの利点があったと考えています。

1 つ目は、世界の学生のレベルの高さを知ることができたことです。私は Short case では Korea University と University of Sydney の学生と協働でワークを行いました。特に、University of Sydney の学生は、コンサルティング・ファームやプライベート・エクイティ・ファンドでのインターンシップの経験があり、ビジネスケースに慣れているという印象を受けました。課題に対するアプローチの仕方、アウトプットの質には驚かされました。同年代の学生がスマートに課題をこなしていく姿を見て劣等感を感じると共に、これまで以上に熱意をもって勉学に取り組んでいこうというモチベーションを得ることができました

2 つ目は、私たちの欠点が明確になったということです。決勝ラウンドに進んだ 3 チームのうち、あるチームのプレゼンテーションを見てみると、私たちの方法とほとんど同じメソッドで課題に取り組んでいたような印象を受けました。リサーチ量、構造分解の精度に大きな違いがあると感じ、これらの部分で、より細部までこだわる必要があったと感じました。今後、さらなるビジネスケースの機会や、経営を分析する機会があれば、今回の反省を生かしたいと考えています。

3 つ目は、自信を得ることができたことです。Short case において、初対面のメンバーと英語で課題に取組むという慣れない環境の中で、アウトプットまで辿り着いたということは非常に大きな自信となりました。大学を卒業し就職した後、外国の方と協働でプロジェク

トに取り組むという機会が必ずあると思います。その際は臆することなく、パフォーマンスを発揮できるのではないかと考えています。

今回、神戸大学チームは予選ラウンドで敗退、決勝ラウンドに進むことができず、残念な結果となりました。悔いは残るものの、同時に、貴重な経験を積むことができ成長するきっかけになったと思います。今回の参加が単なる思い出にならないよう、これを転機に、より一層勉強に励んでいきたいと考えています。

最後に、このビジネスケース・コンペティションに参加する機会を与えてくださった皆様、サポートしてくださった皆様、本当にありがとうございました。

Team Kobe University
杉本　柚梨
高見　周佑
Robert Pitis
岸野　匡兼

Team Advisor
西村　幸宏